

3年道德通信

第14号



第14回『1冊のノート』

第14回目の道德では、認知症の祖母のことをとまどいながらも受け入れていこうとする家族の姿を描いた物語を通して、家族のあり方について考えました。家族の形態は時とともに変わっていきます。それにともない関わり方も変わっていきます。両親や祖父母が年を重ねたり、病気になったりして、これまで自分が当たり前のようにしてもらっていたことが、してもらえなくなるような状況になることもあります。そうしたときでも、家族が幸せに過ごして行くために自分はどうあるべきか、敬老の日も近づいた今、考えてみました。

みんな、たくさんの意見を書いてくれたので、一部ですが紹介します。

みんなの意見

祖母とすれ違ったとき「僕」が知らん顔をして通り過ぎたのはなぜ？

- ・僕のおばあちゃんと友達に知られたくないから。
- ・変な格好をしていて恥ずかしい。身内だと思われたくない。
- ・祖母がみんなに笑われて恥ずかしかったから。



黙って祖母と並んで草取りを始めた「僕」はどんなことを考えていたのでしょうか

- ・祖母がひとりで悩んでいたのを知って、少しでも手伝いたいと思った。
- ・祖母が悩んでいたことを知って、このままではダメだと思った。今まで本当にごめん。
- ・強く当たったことを謝りたいと思った。
- ・おばあちゃんにもう悲しい思いはさせたくない。
- ・今まで本当にごめん。反抗ばかりしていたから後悔している。



あなたにとって家族とは？ 今日の授業で感じたこと。

- ・つらいとき支えてくれたり、いっしょに頑張ってくれるから、感謝しないといけない。
- ・おれの家族はやっぱり最高ですね。うん。おうちに帰るとすごく安心した気持ちになるし、やっぱりおうちが最高だね。家族って言うのはすごく大事なんだなと言うことをしみじみ感じました。
- ・一番自分に近い存在で支えあう人。一番自分のことを理解してくれる。
- ・自分のことをとても大切に思ってくれる大切な人たち。

**家族が幸せに過ごしていくために
に自分はどうあるべきか？**